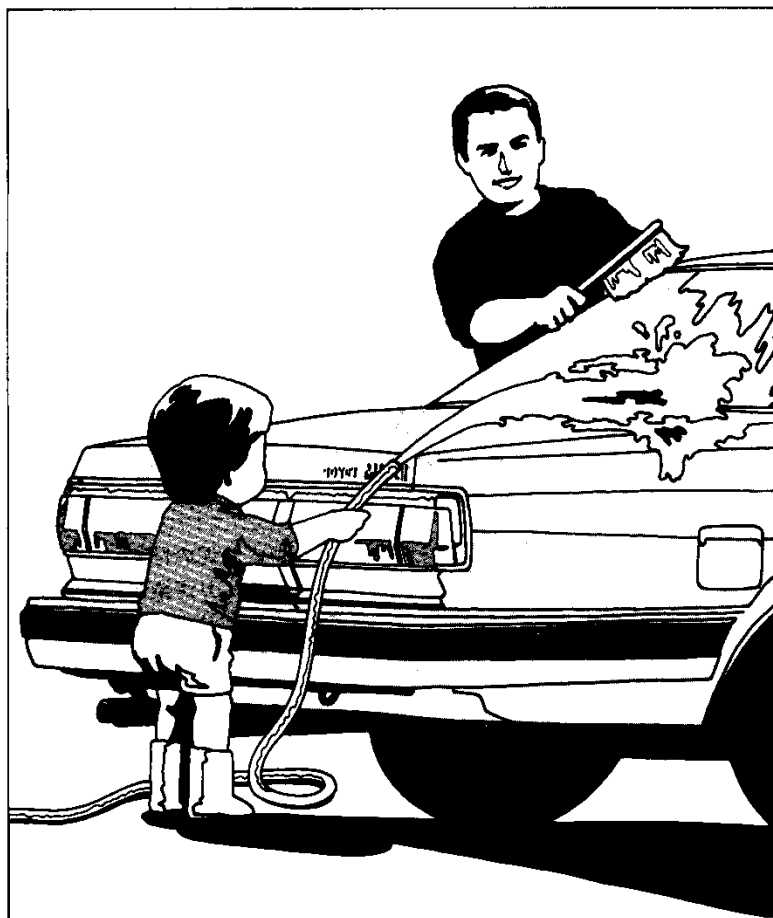


車の手入れ、経済運転のコツ、 寒冷地での取り扱い



車の手入れ.....	82
経済運転のコツ.....	85
寒冷地での取り扱い.....	87

車の手入れ

①車体(塗装部分)



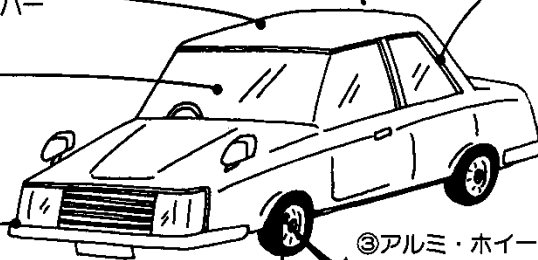
ちょっと一言

1. コンパウンド(みがき粉)入りワックスや、液状ワックスは使用しないでください。
2. エンジン・オイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。

⑥リヤ・ウィンドウ・デフォグガー(曇り取り装置)およびウィンドウ埋め込みアンテナ

④クロームめっき、ステンレス部品(モール、バンパー、窓枠、ドア・サッシなど)

⑥フロント・ガラス&ワイパー



③アルミ・ホイール

LGツーリングに注文装備

②ウレタン・バンパー



ちょっと一言

- コンパウンド(みがき粉)入りワックスや、液状ワックスは使用しないでください。



ちょっと一言

1. 泥の付着、海水、凍結防止剤などにより汚染されると、腐食するおそれがありますので、付着させたままにせず、なるべく早く洗い落としてください。
2. コンパウンド(みがき粉)入りワックスは、よごれがひどく落ちにくいときにだけ限定してご使用ください。
3. 自動洗車機を使用すると、ときによりブラシの傷がついたり塗装膜の摩耗を早めることがあります。

③樹脂ホイール・キャップ



ちょっと一言

- ピッチ・クリーナーなどが樹脂部分に付着すると、破損の原因となりますので、十分注意してください。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い

車を美しく保つには

車をいつまでも美しく保つためには、日頃の手入れが必要です。

1. 次のような場合は必ず洗車してください。

- 海岸地帯を走行したとき。
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
- コールタール、ばい煙、油煙、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき。
- ほこり、泥などで著しくよごれたとき。

2. 次のような場所に長時間駐車しますと、塗装の劣化や、車体、部品の腐食などを早める原因となります。十分注意してください。

- 海岸
- ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所。
- 化学物質を排出する工場周辺。
- 樹液、鳥のふん、虫の死がいなどの付着の多い場所。

①車体(塗装部分)の手入れ

車体のほこりはやわらかい布か毛ばたきで取ってください。

▶洗車方法

1. 車体の下回り、足回りを洗います。
2. 十分水をかけながら、スポンジかセーム皮(鹿のなめし皮)でよごれを洗い落とします。
3. よごれのひどいときは、トヨタ純正カーシャンプーを使用します。

注意!

1. エンジン・ルーム内の電気製品に水をかけないように注意してください。エンジン始動不良の原因となります。
2. 下回りを洗うときは、ゴム手袋などを着用してください。手にケガをするおそれがあります。
3. カーシャンプーを使用したあとは水で十分洗い流してください。
4. 自動洗車機を使用すると、ときによりブラシの傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。

4. 塗装面にはん点が残らないように十分水をふき取ります。

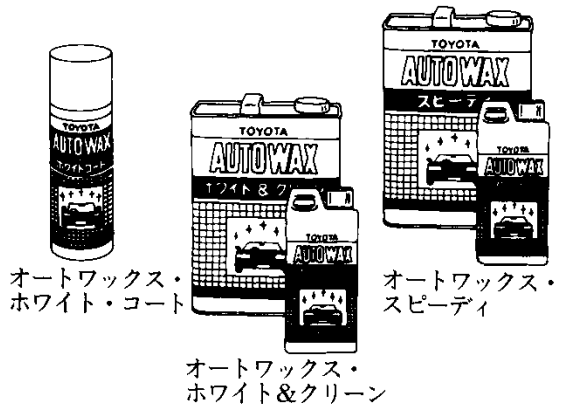
▶ワックスについて

ワックスの中にコンパウンド(みがき粉)がはいっていないものをご使用ください。

1. 1カ月に1度、または水のはじきが悪くなったときに行ってください。
2. 洗車後、車体の温度が体温以下のときに行ってください。しみの原因になります。
3. ワックスは次のトヨタ純正品をお使いください。



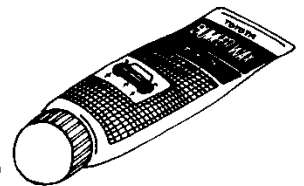
4. 前記のワックスを使用しても、よごれがひどく落ちにくいときは、次のトヨタ純正品をお使いください。



ただし、これらのワックスの中には微粒なコンパウンド(みがき粉)がはいっていますので、よごれ落ちはよくなりますが、塗装面を削り取るため塗装面の光沢が失われる原因になります。できる限り3.のワックスを使用してください。

②ウレタン・バンパーの手入れ

1. 車体と同じく洗車したあと次の専用ワックスでワックスかけをします。トヨタ純正バンパーワックス・ブラック(ウレタン・バンパー用)
2. たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。
3. 塗装面用ワックスや泥が付着すると、ウレタンの目地にはいり白くなることがあります。この場合は、水で洗い落とした後、専用の黒色ワックスを塗布してください。



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い

③アルミ・ホイールの手入れ

1. ホイールを洗うときは、中性洗剤を使用してください。
2. ワイヤー・ブラシなど硬い物を使用して洗うと、ホイール面に傷がつきます。セーム皮、スポンジなどをご使用ください。
3. 最後は十分水洗いをし、車体と同じワックスでワックスがけをしてください。

④クロームめっき、ステンレス部品（モール、バンパー、窓枠、ドア・サッシなど）の手入れ

1. 車体と同じく、洗車したあとワックスがけをします。
2. しみなどは、トヨタ純正オートワックス・ホワイト&クリーンを使用して除去してください。

⑤ウインドウ・ガラスについて

ワイパーのふきが悪くなった場合は、トヨタ純正ガラス・クリーナーで清掃してください。なお、ワイパーゴムが古くなっている場合も同様にふきが悪くなりますので最寄りのトヨタ販売店で交換してください。



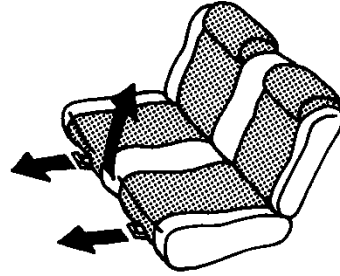
ちょっと一言

リヤ・ウインドウ・ガラス(室内側)の清掃は、断線を防止するため、ぬらした布で熱線にそって、軽くふいてください

ガラス・クリーナーなどを使用すると、リヤ・ウインドウ・デフォグガー（曇り取り）が作動しなくなるおそれがあります。

■リヤ・シートの取りはずし方

シート・カバーの取り付けなどでリヤ・シートを取りはずすときは、シートの足元にあるレバー(2カ所)を引き、シート前部を持ち上げてください。



注意!

レバーを引かずにシートを持ちあげると、シート固定具を損傷するおそれがあります。

⑥塗装の飛び石傷やかき傷などの補修

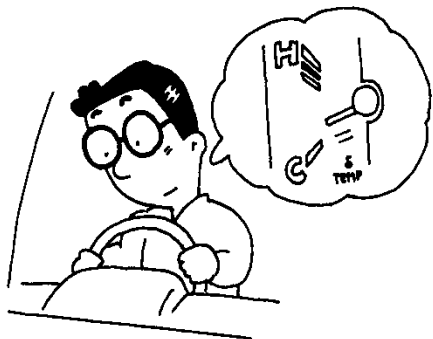
これらの傷は腐食の原因となります。見つけたら早目にトヨタ純正タッチ・アップ・ペイントで補修してください。



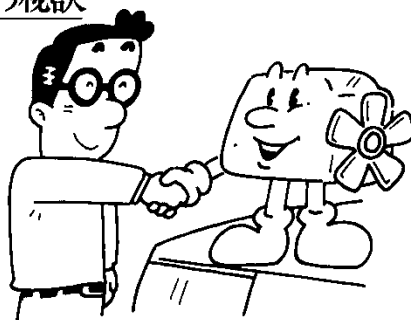
経済運転のコツ

暖機運転は、長すぎると不経済


水温計の指針が動き出すまでになればOKです。



エンジンをいたわる気持ちで、長持ちの秘訣



1. (新車時は特に) ひかえめな運転をしてください。
2. エンジンをオーバーラン(限界回転数超過)させないために、各チェンジ・レバーの位置での速度が下表の数値をこえないようにしてください。

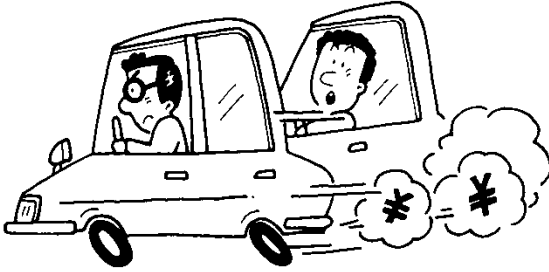
 高速走行時、ギヤを一段下に落とすときはオーバーランに注意してください。

(単位: km/h)

排気量	エンジン型式	トランスミッション型式	1速	2速	3速	4速
2000	IG-EU	5速マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション	45	80	120	155
		2ウェイ・オーバードライブ付き 4速フル・オートマチック・トランスミッション	60	105	150	
	M-TEU	オーバードライブ付き 4速フル・オートマチック・トランスミッション	60	100	150	
1800	IS-U	5速マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション	45	80	120	160
		オーバードライブ付き 4速フル・オートマチック・トランスミッション	60	100	145	

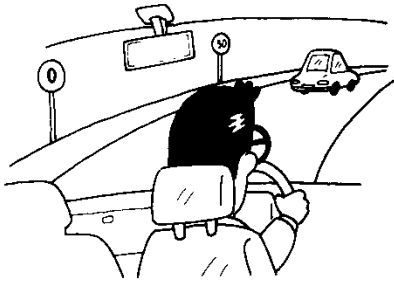
車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い

不必要な高速運転は燃料のムダ使い

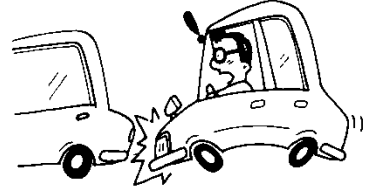


100km/h走行時の燃費は、40km/h走行時の約1.5~1.7倍よけいに多くかかります。
高速道路は80km/h程度で走るのが経済走行といえます。

車間距離はゆったりとって、安全プラス経済運転



急発進、急ブレーキは危険をとめない不経済

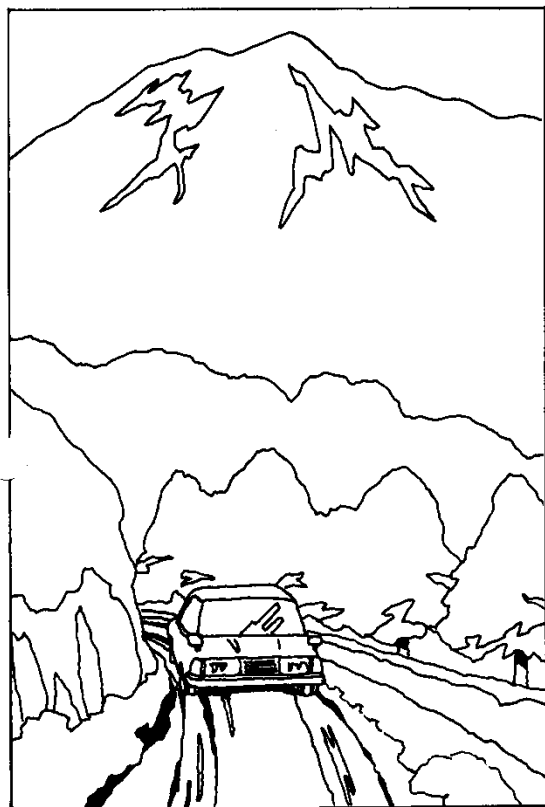


クラッチの適正で確実な操作は、車を長持ちさせる秘訣

1. ギヤをいれるときは、クラッチ・ペダルを十分踏み込んでから行ってください。
中途半端な踏み方ですと、クラッチはもちろんトランスミッションのギヤなどもいためることになります。
2. 走行中は、クラッチ・ペダルに足をのせないようにしてください。
3. 発進時は、ロー(1速)・ギヤを使用してください。
セカンド(2速)・ギヤ発進はクラッチの摩耗を早めるおそれがあります。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い

寒冷地での取り扱い



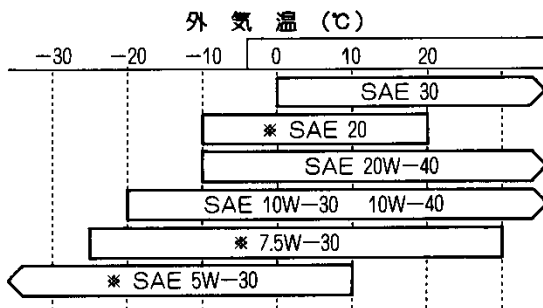
この項目での寒冷地とは、北海道全域および東北、北陸の積雪地帯および、その他の地域を含めた山岳地、スキー場などの局地的な厳寒地区、多雪地区を対象としておりますが、その他の地域においても、冬期の取り扱いの参考としてください。

安全なウインター・ドライブをするために

1. タイヤ・チェーンの準備
2. スノー・タイヤの装着
スノー・タイヤに取り替えるときは、4輪とも交換します。
3. 冷却水の濃度の点検をしてください。(寒冷時は、キャッスル・ロング・ライフ・クーラントの濃度を50%にします。)
4. ウォッシャー液の濃度を50%以上に上げます。

使用地域・季節	希釈割合	凍結温度
通常	原液 1 に水 2	-10℃
寒冷地の冬期	原液 1 に水 1	-20℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	-50℃以下

5. エンジン・オイルの粘度番号は、車の運転条件によって多少異なりますが、外気温によって下表を参考にして使い分けてください。



ちよつと一言

1. 外気温が0℃以下になる時期にはSAE 30を、また20℃以上になる時期にはSAE 20を使用しないでください。10W-30などのマルチ・グレード・オイルの使用をおすすめします。
2. *印のオイルはターボには使用できません。

6. 寒冷地では冬がくる前に燃料タンクの水分を排出することをおすすめします。
また、水分除去剤にはトヨタ純正キヤスミック・エース・ウォーターカットを使用してください。
7. 凍結防止用ワイパー・ゴムの装着
必ずトヨタ純正品を使用してください。
8. ワイパーの切り替え

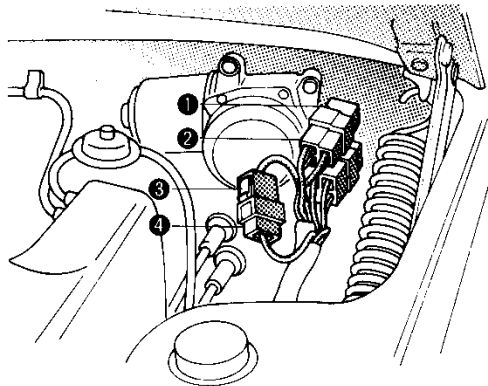
GLを除く

フル・コンシールド式ワイパーは、フロント・ガラスに多量の雪が積もった場合ワイパーがあがらなくなり、ワイパー・モーターを損傷するおそれがありますのでワイパー・モーターのコネクターを切り替えてフル・コンシールド式からセミ・コンシールド式にしてご使用ください。

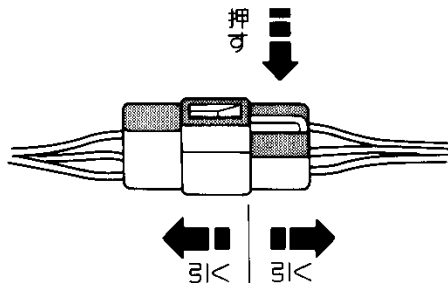
＜切り替え方法＞

エンジン・ルーム左側うしろにあるコネクターの接続を次のように切り替えます。

- 1.ワイパー・モーター横のコネクター①、②と下側にあるコネクター③、④を切り放します。



コネクターはフック部を押しながら左右に切り放します。



切り放すときはコードを持って引っ張らないでください。断線するおそれがあります。

- 2.1.で切り放したコネクターの①と③、②と④を接続します。



コネクターを接続したときにカチッと音がしてロックされたことを確認してください。

走行前の点検(運行前点検)

寒冷時には、次の項目を運行前点検のときに実施してください。

- 1.車の下をのぞいて、足回りに付着した氷塊を部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。
- 2.エンジン始動時にアクセル・ペダルの作動が円滑かどうか確認してください。
- 3.フロント・ウィンドウの冰雪を除去する際には、ワイパー・ゴムがガラスに凍結していないか確認してください。

エンジンの冷えすぎを防ぐには

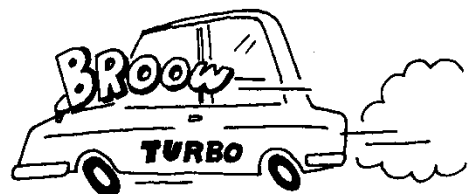


- 1.気温に応じてラジエーター前面にカバーをつけることでエンジンを適温に保つのに効果があります。
- 2.駐車するときは、ボンネット側を風下にしてください。

ドアの凍結時の処置

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア回りのゴムがはがれたり、き裂するおそれがありますので、湯をかけて氷を溶かしてください。なお、後で水分を十分ふき取ってください。

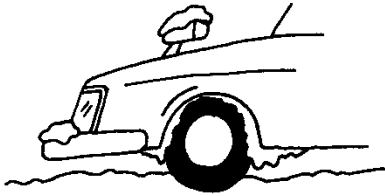
ターボはエンジン始動直後に、エンジンの急激な空ふかし、または急加速をしないでください。



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い

雪道走行時、
フェンダー裏側に付着した雪が氷結し
次第にたい積して、
ハンドルのきれが悪くなる場合があります。

ときどき異常のないことを確認してください。



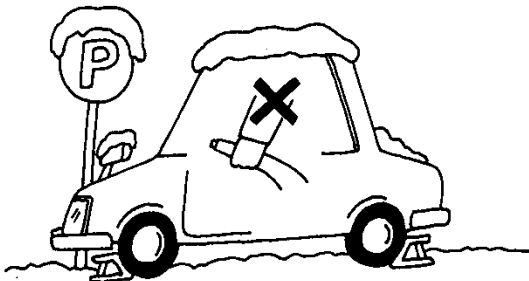
アクセル・ペダル凍結防止のため、
靴に付着した雪を
乗車時、よく落としてください。



凍結するおそれのある場合の駐車は…

寒冷時はパーキング(駐車)・ブレーキをかけておくと
ブレーキ装置が凍結するおそれがありますので、パー
キング(駐車)・ブレーキをかけないでください。

1. チェンジ・レバーの位置をマニュアル(ギア式)・ト
ランスミッション車はロー(1速)またはリバース
(後退)、オートマチック・トランスミッション車は
Pにします。
2. 車が絶対に動くことのないように輪止め(搭載工具
の中に含まれています)をしてください。

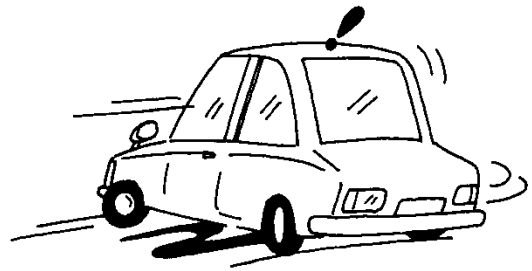


深い雪道を走行した後に駐車したとき
や、吹雪の中に駐車したときは、
ブレーキ装置に着氷し、ブレーキの
効きが悪くなる場合があります。

走行を再開したら、できるだけ早く、前後の車や道路
状況に注意してブレーキの効き具合を確認してくださ
い。

ブレーキの効きが悪い場合は、ブレーキ・ペダルを踏
んで、効きが回復するまで低速で走行してください。

ぬれた路面、冰雪路面、凍結路面で
はスリップに注意



ひかえめな速度で走り、冰雪路面、凍結路面では、スノ
ー・タイヤ、タイヤ・チェーンを装着してください。
地域によっては、条例などで使用が義務づけられてい
ますので、冬がくる前に準備しておいてください。



タイヤ・チェーンをつけるときは

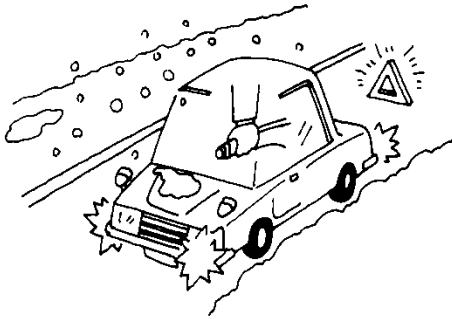


1. タイヤ・チェーンは後2輪に取りつけます。
2. 作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。
3. タイヤ・チェーンはタイヤ・サイズにあったトヨタ純正品または下表指定サイズのものを使用してください。

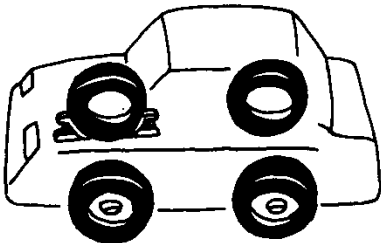
タイヤ・サイズ	指定サイズ (JIS表示)
6.45-14-4PRLT	45191A
175SR14 185/70SR14 185/70HR14	45191

■取り付け方

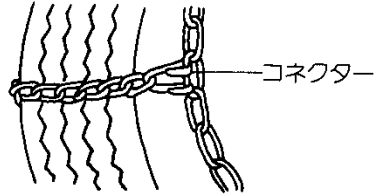
1. 交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板を使用します。
3. パーキング(駐車)・ブレーキをかけます。



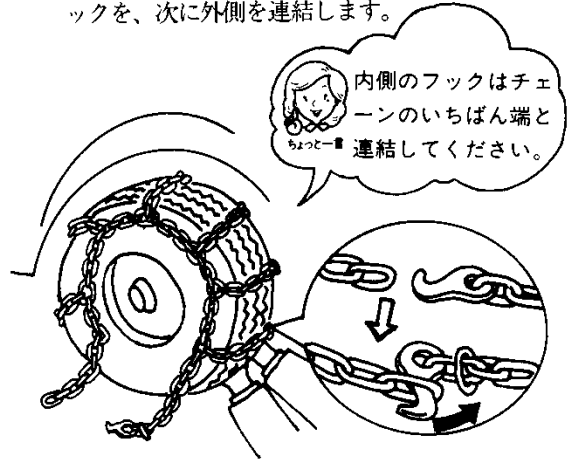
4. 工具、ジャッキを取り出します。
5. 左側チェーン取り付け時には右側前輪、右側チェーン取り付け時には左側前輪の前後に、輪止め(搭載工具に含まれています)をします。



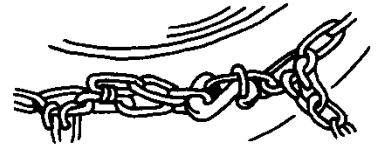
6. 後輪をジャッキ・アップします。☐68ページの「ジャッキの使い方」を参照してください。
7. コネクターの折り曲げを外になるようにチェーンをかぶせます。



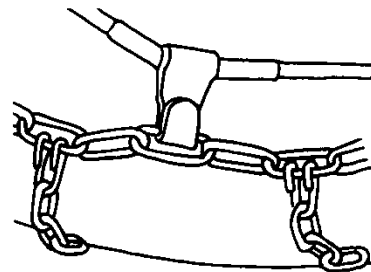
8. チェーンの両端をいっぱい引っ張って内側のフックを、次に外側を連結します。



9. 余ったチェーンは車体に当たるのを防止するため下図のように針金で結びます。



10. チェーン・バンドはクリップの爪を外向きにし、チェーンにかけます。



11. ジャッキをおろし、輪止めをはずします。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い

12. 2～3分走行後、チェーンのゆるみ、はずれなどが無いことを確認してください。



ちょっと一言

1. 走行中タイヤ・チェーンがきれたり、一部はずれたりした場合は、車体側に当たり悪影響をおよぼしますので、ただちに処置してください。
2. ホイール・キャップ付き車の場合、ホイール・キャップに傷がつくおそれがありますので、タイヤ・チェーンを装着する場合にはホイール・キャップをはずしてください。
3. アルミ・ホイール装着車はホイールに傷をつけるおそれがありますので、タイヤ・チェーンの装着はおすすめできません。雪道走行の予定があるときは、なるべくスチール・ホイールにつけ替えてください。☞72ページ「アルミ・ホイール装着車」を参照してください。

■取りはずし方

1. チェーン・バンドをはずし、針金を取り、フックは内側から先にはずします。
2. 車を少し動かし、チェーンを取り出します。



注意!

1. タイヤ・チェーン購入時に一度装着して、長すぎる場合は、タイヤ・サイズにあうようきってください。
2. タイヤ・チェーンを装着した場合、雪道、凍結路は30km/h以下で走行してください。
3. 雪道、凍結路以外でのタイヤ・チェーンの装着はチェーンの寿命を短くしますので、できるだけさけてください。
4. 前輪にはタイヤ・チェーンを装着することはできません。